

シ ー ズ 名	飼料用米高度配合飼料を用いたバークシャー種(豚)肥育技術	分類 : 11			
所 属 / 職 / 氏 名	畜産研究所・家畜育種研究室 / 専門研究員 / 佐々木康仁				
キ ー ワ ー ド	バークシャー種、飼料用米、肥育後期				
どんな技術？					
一言アピール 肥育後期のバークシャー種に、飼料用米 55%配合飼料を給与することで、通常飼料給与の場合と同等以上の発育や美味しい豚肉生産が期待できます。					
【飼料用米配合飼料の特徴は？】					
トウモロコシ主体の飼料と比較して、リジン含量が高くなります。					
脂肪酸組成では、オレイン酸割合が高まり、リノール酸割合が低くなります。					
【飼料用米給与による豚の発育は？】					
日増体量はトウモロコシ主体の飼料と同等ですが、飼料要求率が良くなる傾向が見られます。					
【生産される枝肉の特徴は？】					
枝肉背脂肪厚などの枝肉形質や、筋肉内脂肪含量、ロース芯肉色、皮下脂肪内層脂肪色は、トウモロコシ主体の飼料と同等ですが、皮下脂肪内層のリノール酸割合は低くなります。					
 トウモロコシ主体配合飼料のロース			 飼料用米 55%配合飼料のロース		
何に使えるの？					
(1) 飼料に米を使用することで、飼料自給率の向上が期待されます。					
(2) 飼料用米の給与する量を多くすることで、美味しい豚肉生産が可能になります。					
関 連 特 許					
関 連 資 料 等					
岩手県農業研究センター研究レポート No.649(平成 24 年) http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/repo/index.html					